

「ベンチャー型事業承継」

管内2人の対談配信

道経産局

©北海道新聞社

会社の若手後継者が家業を承継して新事業に取り組む「ベンチャー型事業承継」の事例を学ぶオンラインセミナーが開かれた。オホーツク管内の後継者2人が北見市内で対談し、その様子をライブ配信した。30人が視聴した。

北海道経済産業局が10月27日に行った。対談したのは、牛の尿を使った土壌改良剤や消臭剤を製造販売する北見市の「環境大善」の窪之内誠社長と、東京五輪

のメダルケースを手掛ける津別の家具メーカー「山上木工」の山上裕一朗専務。

家業を冷めた目で見ているという窪之内社長は、取引先の言葉で発展性に気づいたという。研究部署の立ち上げやブランド戦略練り直しに着手、海外への販路拡大につなげるまでを紹介し、「絶えず情報発信し、外部に協力者を増やすことが大切」と強調した。



家業を継いだ体験を語る窪之内誠社長（中央）と山上裕一朗専務（左）

入社後、先代と衝突しながら「家業に順応していった」と振り返った。今年8月に木工家具を定額で貸し出すサービスや貿易仲介業の新会社を始め、「小さい町でも世界に挑戦できる。日本を支える使命感を持って地方に戻ってほしい」と呼びかけた。
(古市優伍)